

事務事業名		有害鳥獣捕獲事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業			
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間			
	施策名	20 地域の特性を生かした農林業の振興		単年度のみ			
	基本事業名	01 農業経営の安定化		☒ 単年度繰返 (開始 不明 年度～)			
根拠法令				☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入			
所属	部課名	農林水産部農林課		予算科目			
	課長名	田中 聖一		会計 款 項 目 事業			
	係名	林業係	電話	27-3111	01 06 02 06 05		
	担当者	木村 亮	内線	7126			
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)			
当市では、鳥類などの有害鳥獣により、農産物が甚大な被害を受けている。平成25年中におけるこれら鳥獣による農業被害額は3,211万円を超えている。農産物被害の減少ため、有害捕獲事業を継続して実施するものである。 本事業で、鳥類等について、年間を通して地元猟友会等に駆除及び死骸の処理を委託する。 有害鳥獣の生息状況調査を委託する。 主な業務 見積依頼(猟友会等)、②委託契約(猟友会等)、③期間終了後支払業務 事業費は、委託料として支出される。				総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金	
					事業内訳	都道府県支出金	
						地方債	
						その他	
						一般財源	
						事業費計(A)	0
						人件費	正規職員従事人数
人件費	延べ業務時間						
	人件費計(B)	0					
	トータルコスト(A)+(B)	0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動)			⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)							
前年度実績(前年度に行った主な活動)			名称		単位					
・なし			ア	有害捕獲実施日	日					
今年度計画(今年度に計画している主な活動)			イ	有害捕獲参加人数	人					
・五葉山に生息するニホンザルの生息状況調査を委託する。			ウ							
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)							
・農作物の耕作地及び、新植林地、林業作物			名称		単位					
			カ	農地面積	ha					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)			キ							
農林作物の鳥獣被害の防除により、生産向上に繋がる。			ク							
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)							
・安定して農業を営む。			名称		単位					
			サ	カラス等鳥類捕獲数	羽・頭					
			シ							
			ス							
(2) 総事業費・指標等の推移										
			単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	500	500	0	0	0	918	
	事業費計(A)		千円	500	500	0	0	0	918	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1					1
		延べ業務時間	時間	50	50					50
		人件費計(B)	千円	200	200	0	0	0	200	
		トータルコスト(A)+(B)		千円	700	700	0	0	0	1,118
⑤活動指標		ア	日	40	40				60	
		イ	人	58	58				5	
		ウ								
⑥対象指標		カ	ha	972	972				972	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	羽・頭	300	299				2	
		シ								
		ス								

事務事業ID	1142	事務事業名	有害鳥獣捕獲事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
・事業開始年度は不明であるが、鳥獣の増加に伴い、市内における農産物被害が増加したため、被害防止のため猟友会に委託をして、有害鳥獣捕獲委託事業を開始した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・鳥獣による農業被害は依然として解消されず、農業収益及び農家の経営意欲に影響を及ぼしている現状である。鳥獣の被害防止には、鳥獣の駆除が、極めて有効であり、今後とも、市において駆除等の措置を講じなければならない状況にある。			
・H26年頃からニホンザルの目撃があり、農業被害が出ていることから、被害が拡大する前に対策を講じなければならない。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・鳥獣による農業被害を受けている農業関係者等から、事業実施の継続を強く求められている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	鳥獣による農産物被害が減れば、農家の安定した農産物の生産及び供給につながり、所得の向上を通じ、豊かな市民生活の実現に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	・鳥獣を駆除するなど、適切な防除措置を講じなければ、農業収入の減少及び農家の生産意欲の低下につながるため、市において積極的に関わっていかなければならない。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	・農地等が鳥獣被害から守られるようになるので、対象、意図ともに適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	・事業を継続して実施することで、徐々に農地等が鳥獣(カラス・スズメ・ツキノワグマ)被害から守られるようになり、成果を維持できる。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	・鳥獣を駆除するなど、適切な防除措置を講じなければ、鳥獣被害の拡大を招き、農業収入の減少及び農家の生産意欲の低下につながり、農林業振興の妨げとなる。よって廃止・休止はできない。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	・本事業のように、鳥獣の有害捕獲による、鳥獣被害防止事業が他に無いことから、統廃合はできない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	・現時点で、相応の委託料を支出しており、委託料の削減は本事業の支障をきたす。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	・業務を可能な限り外部委託しており、業務所要時間について、これ以上の削減は難しい。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	・農業振興を図る上で、鳥獣被害対策は市の重要課題であること、鳥獣被害は市内全域に及び、特定の受益者を定めることはできないこと。以上の理由により、受益者負担を求めることはできない。	

事務事業ID	1142	事務事業名	有害鳥獣捕獲事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・有害鳥獣の個体数の増加のみならず、ニホンザルの農業被害が発生するなど、多種にわたっていることから、様々な対応を検討していかなければならない。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・今後も継続して鳥獣等を駆除することで、事業成果の維持を図る。 ・H26年頃からニホンザルの目撃が多くなり、農業被害が出ていることから生息状況の調査を行う。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	農林課長 田中聖一

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
